

輸出事業計画

※申請者名：熊本県産牛肉輸出促進コンソーシアム 品目：牛肉

1. 輸出における現状と課題

【輸出における現状】

- 平成22年以前は、食肉輸出に対応できる高度な衛生管理水準を有する食肉処理施設が県内になかったが、熊本県産食肉のブランド化を推進する上で、海外も含めた安全・安心な食肉供給体制を構築することが必要と考え、輸出に取り組んだ。
- 食肉処理施設である株式会社熊本畜産流通センターでは、平成21～22年にかけて対米及び対香港輸出対応型施設の整備に着手し、平成22年4月にはH A C C Pシステムが組み込まれたI S O 2 2 0 0 0の認証取得に取り組み、平成23年度には高度衛生施設が完成した。
- 平成26年3月に対米及び対香港輸出認定を取得したことで、今後需要が見込まれるアジア圏を中心に輸出先国の開拓を拡大、現在までに14か国の輸出認定の取得に至っている。

【輸出における課題】

【販売】ロイン系以外の馴染みのない部分の輸出量の増加

【動物福祉】対米輸出認定施設については、米国の指摘に対応するために、鼻環を牽引しない牛の取扱いを行う必要がある。畜産流通センターでは、出荷牛の約半数が鼻環を装着しており、頭絡への移行については、脱着が容易で低コスト、フレキシブルな頭絡があることが前提となるものの、農家の高齢化や頭絡装着時の安全面の配慮等の課題が山積している。

【血斑低減】血斑の低減については、エアーガンと殺銃の使い分け、と殺銃の火薬変更（威力アップ）、腹受け台の改造、ノッキングベン改修工事、生体通路改修工事、スタンディングボックスの制御変更、追い込み通路の短縮、雑音の低減、照明照度の変更 など出来る限りの対応を行ってきているが、血斑発生の明確な要因が判明していない。

2. 輸出事業計画の取組内容

【販売】

- 現地輸入業者が有する加工場に、必要に応じて技術指導を行い、現地ニーズに即した商品を開発する。販売にあたってはサンプルを活用し、現地で使用しやすい規格を分析し、ニーズに合った規格を提供するとともに、各部位の料理など多様な活用方法をアピールして販売ロスをなくす。産地ブランドの訴求には、HP上での産地関連情報の提供により十分な周知を図る。
- 大手量販店に対し、産地フェアとして1頭セットの提案を行う。現地量販店群に1頭セットの提案（1頭単位での流通）を推進するにあたっては、例えば焼肉用やしゃぶしゃぶ用などの用途毎に陳列し、POPなどの資材を用いて部位の利用方法をPRする手法で十分な周知を図る。
- 輸出部位がロイン系やヒレに偏っており、人気部位以外を日本国内で消費する必要があるため、輸出量が伸び悩む要因となっている。そこで、人気部位（ロイン、ヒレ）以外を現地飲食店で使用してもらえるように現地飲食店のシェフに対してカット方法や調理方法等をフェアや研修会で伝授する。

【動物福祉】

- 鼻環を用いずに牽引するため、使いまわしが可能な物と使い捨て（簡易的）な頭絡のプロトタイプを作成し、実証試験を重ねた。使いまわしタイプについては、大きなコストがかかると同時に、食肉処理施設側で衛生面、作業面に解決が難しい課題が出ている。このため、使い捨てタイプの頭絡に絞った形で装着の簡易さ、使用者の安全性及び運搬までの作業時間等の実証試験を行う。併せて、株式会社熊本畜産流通センター係留所内の牛の牽引方法（鼻輪でけん引しない）について周知を行う。

【血斑低減】

- 対米輸出認定施設においては、血斑の低減は共通する課題であり、今後も各施設を視察、意見交換を行い、情報共有を図っていくとともに、環境、施設、人員構成と異なる点が多い中、他施設との相違点を探り、分析することで更なる改善へと結びつけていく。

輸出事業計画

※申請者名：熊本県産牛肉輸出促進コンソーシアム 品目：牛肉

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

熊本県産牛肉輸出促進コンソーシアム

事業実施主体

熊本県産牛肉輸出促進
コンソーシアム事務局
(株)熊本畜産流通センター

動物福祉への対応
血班低減への取組
販売戦略の検討
プロモーション活動
e t c

構成員

畜産物の生産者等



— 水の恵みと大地の香り —

JA熊本経済連

食肉処理施設



株式会社
熊本畜産流通センター

国内販売、輸出事業者



ZEN-NOH

全農

JA全農ミートフーズ株式会社

JA全農インターナショナル株式会社



○熊本県経済農業協同組合連合会

米国輸出認定施設では、アニマルウェルフェアの観点から鼻環を用いない牽引方法が求められる。生産者が食肉処理場に搬入する際、頭絡に付け替えるよう周知し、それを徹底させる。（※頭絡については畜産物輸出コンソーシアム推進対策事業を活用し食肉処理場が準備する予定）

○熊本畜産流通センター

各国の要綱を遵守し、安定的な輸出体制を維持する。

○JA全農インターナショナル

認知度向上、セカンダリ・カット（冷凍品）の活用方法等のプロモーション活動を展開し、輸出拡大を図る。

4. 輸出目標額

対象品目：牛肉

	現状 (令和4年)	目標 (令和7年)
輸出額（千円）	212,058	380,000
輸出量（t）	31.4	51.4
輸出先国	香港、台湾、米国	香港、台湾、米国